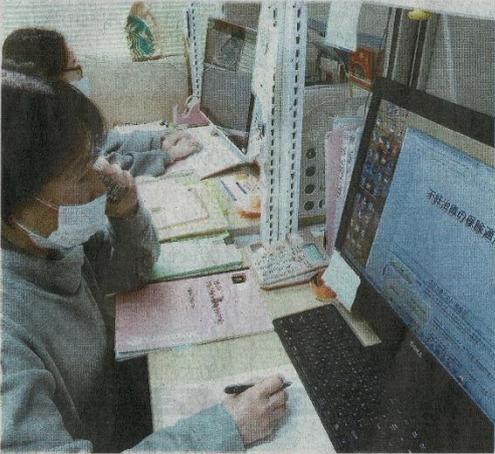


県センター 不育症や性同一性障害も対応



不妊治療などの相談に対応しているスタッフ

相談は電話(086-2501611)・メール(funin@cc.okayama-u.ac.jp)など。Zoomは予約が必要。

コロナ禍以降低迷 ニーズ掘り起こし

「岡山県不妊専門相談センター 不妊・不育とこころの相談室」が岡山大病院(岡山市北区鹿田町)に開設され、満20年がたった。不育症や性同一性障害の悩みにも対応できるのが特長で、県外、海外を含め1万6000件を超える相談に対応してきた。ただ、件数は新型コロナウイルス禍以降低迷しており、一層のPRも求められている。(二羽俊次)

センターは県の委託を受け2004年5月に開設。当時はスタッフが3人しかおらず、相談は平日の週2日に限定していたが、現在は木曜を除く平日の午後と毎月第1土、日曜に拡大。医師、不妊カウンセラーの資格を持つ助産師、看護師、臨床心理士ら10人に対応している。相談は電話、ファクス、メール、来所、ビデオ会議システム「Zoom」のほか、Zoom(Zoom)で受け付けている。Zoomなどから岡山大病院を受診するようになったケースもある。

「がん治療に臨むが、将来の出産に備え受精卵を凍結保存したい」「夫が無精子症のため第三者の精子提供を受けたい」、LGBT(性的少数者)のカップルからは「子どもを授かる方法を教えてほしい」など、相談は多岐にわたる。医療倫理を含めた内容も助言できるよう、スタッフは毎月勉強会を開いている。

課題はコロナ禍で落ち込んだニーズの掘り起こし。かつては相談が年間千件を超えたこともあったが、20年以降は500〜700件程度にとどま

不妊専門相談 20年で1.6万件

oom(Zoom)で受け付けている。Zoomなどから岡山大病院を受診するようになったケースもある。

20年間の相談件数は計約1万6600件。不妊症と流産や死産を繰り返し、凍結保存したい」「夫が不育症に関する相談が約8割を占める。性同一性障害に関する相談は毎年10〜30件ほど寄せられている。

不妊の相談機関は国の方針に沿って全都道府県に設けられているが、センターのように不育症や性同一性障害といった悩みにも対応できる場所は少ないとみられ、県外、海外からの相談が判明分だけで25%に達する。特にZoomは全約90件中、20年以降は500〜700件程度にとどま